

## 未曾有の「コロナ禍」から市民の命と生業を守るために。

政党や組織と一線を画し、一市民としての視点、地域の視点、行政の監視役としての視点に軸足を置き、議会での発言と提言をしっかりと行っていくことで一致し、**たかばとくこ**、**宮下しんご**の2名が無所属クラブ（むしょぞくくらぶ）を結成、議会内会派としての活動を始めて2年目となりました。

2020年2月以降、新型コロナウイルス感染症の発生により、地域も経済もこれまでにない状況が続いています。市民の命と暮らしを守るため、必然的に、個々の議員としての活動だけでなく、2名で話し合い、情報共有しながら議会内や市執行部に対して行動しています。

### 皆さまのお声をもとに 「緊急要望書」を市長に提出

大府市議会では、市に対策本部が設置される災害等の危機が発生した際、「危機対応を優先してもらう」として、各課への直接の問い合わせや要望活動を控える取り決めを設けています。

地域経済や日々の暮らしへの影響が深刻さを増していくなか、皆さまのお困りごとや先行きのご心配などを行政にどう伝え、対応等を求めていけばいいのかを考えつつ、日に日

に変わっていく情報の収集を続けておりましたが、その後、議会を経由した問い合わせが可能になったことから、複数回にわたる問い合わせを書面にて行ったほか、5月1日には、市民の皆さまより頂戴した数多くのお声を踏まえ、無所属クラブとしての意見も付して取りまとめた「大府市における新型コロナウイルス感染症対策に係る緊急要望書」を、岡村秀人市長に直接手渡しました。

### 「市民の命と生業」を守る 新型コロナ対策を

この緊急要望書では、「市民の命を守る」「市民の生活と生業を守る」という無所属クラブとしての2つの基本姿勢に基づき、

1. 市民の生活を守る感染防止策に向けて
2. 市民の生活と生業を守るために
3. 感染の収束段階に応じた市民生活の正常化に向けて

の3章に分けた計18項目の要望を盛り込んだほか、参考として具体的な課題や対応策の事例なども別紙で添付しました。

「感染者や医療従事者およびその家族に対する排他的な言動」も課題

なりわい

として提起しており、9月定例会にて可決された「大府市感染症対策条例」には、差別的取扱い等の禁止が明記されています。

（「大府市感染症対策条例」より引用）  
第7条 何人も、感染症の患者及びその家族、医療従事者等に対して、感染症にかかっていること又はそのおそれがあること等を理由として、差別的取扱い又は誹謗中傷をしてはならない。

また、ごみ捨ておよび収集過程における感染防止策の周知（使用済みマスクなどを2重袋にする、ごみ捨て後の手洗い励行等）、市役所での感染防止策の実施（来庁者の分散、長時間の滞留抑止）などは、具体的な改善にもつながりました。未だに先の見通せない状況が続くなかで、市民生活と行政運営の両面で、まだまだ新たな課題が生じてくることが予想されます。どうか皆さまのお声を引き続きお寄せください。



新型コロナ対策の緊急要望書を岡村秀人市長に提出

## 新型コロナがもたらす悪影響から、まちの未来を守る。

大府市で「新型コロナウイルス感染症危機連絡会議」が設置され、国においても安倍首相（当時）が3月2日からの学校休業要請を表明するなど、未知の感染症の出現が社会に影響を落としはじめた2020年2月下旬から、私たち無所属クラブは、新型コロナが翌年度以降のわがまちにおける自治体としての行財政運営に大きな影響を与えるおそれについて常に危惧し、議会での発言を通じて一貫して警鐘を鳴らし続けてきました。

### 新型コロナによる財政への深刻な影響をいち早く指摘

令和2年度の当初予算を審議した3月定例会では、国や県の支援策に対して市の財政負担が増える可能性に言及したほか、市が独自のケアを考えていく必要性についても指摘。令和3年度以降の税収面において、これまでと異なる事情が起こる可能性を踏まえたうえで、事業前倒しの想定、長期計画上の案件の実施時期の慎重な検討、基金に対する考え方の整理の必要性などを、賛成討論で主張しました。

これに続き、5月の第2回臨時会における一般会計補正予算（第3号）への賛成討論では、災害など緊急時の備えである財政調整基金に関して、**たかばとくこ**が平成30年12

月定例会で行った一般質問に対し、「（財政調整基金は）標準財政規模の10%から20%の額を積み立てておくことが適正」との答弁があったことを踏まえたうえで、新型コロナ対応による取り崩しにより、すでに基金残高が警戒水域に入りつつあることに注意を促しました。

また、6月定例会の一般会計補正予算（第6号）への賛成討論でも、「（新型コロナが）一朝有事の状況を脱したとの認識は時期尚早」と指摘。規模が縮小されることとなった市制50周年関連事業のほか、大型インフラ計画や総合計画全般の遂行スケジュールにもどのような支障があるかを想定したうえで、「新型コロナの今の状況では仕方ない」では切れないものや、不要不急の整理を冷静に行う必要性に言及しました。さらに、税収面の懸念や基金への影響等も念頭に置きながら、財政の見通しを決して楽観視せず、長期的な視野で緊張感を持った行財政運営を行うことも求めました。

これに加え、令和元年度決算認定での賛成討論（9月定例会）では、前年度の行政経営への振り返りから得られた教訓や改善点などが、新型コロナの発生により、そのすべてを今後にかけるわけではない状況となったことに言及しつつ、今はまだ時代の転換期の入口にすぎない旨、念押しもしています。

### 「大府市感染症対策条例」差別・中傷防止だけでなく“もしも”の時のサポートを



9月定例会にて、「大府市感染症対策条例」が全会一致で可決され、無所属クラブは賛成の立場から討論しました。

この条例によって、新たな感染症が新型インフルエンザ等対策特措法などに基づく指定前であっても、市が必要と判断すれば条例適用すべき感染症に指定することができ、国や県の位置づけによって変動することなく、市が一貫して感染症対策本部としての司令塔を継続できる点と、差別的取り扱いや誹謗中傷、デマ等による風評被害といった権利侵害に対して、明確に「してはならない」と定めたことなどを評価した一方、差別が起きた場合の救済については定めがないことから、もしも被害が出てしまった際には当事者の立場に立ち、できる限りの人権擁護の対応策を考えて協力するよう、合わせて求めました。

発行 大府市議会 無所属クラブ

鷹羽 登久子（鷹羽登久子後援会）／大東町

宮下 真悟（大府をみんなで創る会）／共西町

皆さまの声をお寄せください

obu\_musyozoku\_019@yahoo.co.jp





# 「コロナ禍」によって起きていることを正しく知り、これからを考える。

令和2年9月定例会 一般質問 たかばとくこ

## 新型コロナの危機によって今大府市に何が起きているか

市職員が新型コロナ対策に専念できるよう3月は一般質問取り下げ、6月も全議員が一般質問を行わないこととしたため、一般質問の機会を2回続けて逃していました。

「やっと質問できる!」となった9月、真っ先に質問すべきと考えたことは、「現時点でコロナによって大府市に何が起きているか」の把握、そして、「今、目の前にある危機と長期的に考えるべき課題」でした。そのうえで災禍を乗り越え、大府市50年から100年に向けて歩いていきたいと考えています。



## 市民活動・文化活動の営みを途絶えさせないために

命を守ることは最優先ですが、人どうしの交流を避ける状況が続くなら、市民の活動の停滞は避けられず、長い年月をかけて紡いできた市民の文化や地域づくりなどの市民活動は停滞し、放っておけば衰退しかねません。「今、目の前の危機を乗り越え、今、切実に困っている人をケアすることに加え、まちを形づくるものを維持していくことにも目を向けていく必要があります。神社のお祭りも縮小、練習や作品づくりを一緒にしたり、発表の場を作るなどができなくなっていることで、文化の継承や団体活動の継続に大きな影が落ちています。

こうした懸念を指摘し、衰退や途絶を食い止めるため、「1月以降の経過から感じる課題」、「市民活動の継続のためにできること」、「文化活動の継続と継承、今後のあり方の考え」を問いました。答弁では、市民活動と文化活動のそれぞれの担当課でも課題を認識していること、感染防止と活動継続の両立に向けた支援に取り組んでいくこと、オンラインや動画での配信や記録・保存等の活用に着手し、広げていく考えが示されました。

## 市民の生活を守ることと市の行政経営の両立が課題

コロナ禍で市民生活は激変。市民からの様々な相談に対応し、必要な支援を講じている市は、9月時点で課題をどのように捉えているのでしょうか。

経済活動については、「信用保証料補助金は昨年度が32件だったが、今年度は8月末時点で688件。中小企業や事業主を支えていく様々な取組をしている」、「ハローワークでの求職者数が2月から増え始め、7月は月平均の3割増。雇止めや派遣切りなどの影響と思われる」との認識が述べられ、生活支援相談についても、「生活困窮者が抱える課題を実感している」、「非正規雇用やフリーの個人事業主など、就労形態の不安定さが浮き彫りとなっている」、「職を失った外国人は言葉に加えて文化や生活様式の違いも障壁」といった趣旨の答弁がありました。

何かあれば真っ先に追い込まれるのが、社会の脆弱なところと言われています。「今」を支援するとともに、社会の弱い立場を知り、構造的に考えていくことも必要です。市では、「当面、歳入減は避けられない」と見込んでいる点も答弁で確認できました。行政経営との両立も課題です。

# “感染症と災害” という2つの脅威から、市民の命と安全を守るために。

令和2年9月定例会 一般質問 宮下しんご



新型コロナ対応による運用の変更に加え、15名もの議員より通告が出されたことで、9月10日(木)・11日(金)・14日(月)の3日間の日程で行われた9月定例会での一般質問。宮下は2日目午後の2番手として登壇し、「感染症と災害という二つの脅威から市民の命と安全を守るために」と題して、密を避けるために避難所を増やすなどの検討状況や、感染症対策を講じた避難所の設営・運営に関する周知や研修、感染症への恐怖心による差別や排除が起こらないようにするための人権啓発と適切な情報発信、無症状感染や感染疑いの方に自宅外避難の必要が生じた場合の対応などについて、市の考えを尋ねました。

## 新型コロナ感染症に対応した避難所運営のあり方は

まず市長からは、避難所での感染症予防と新型コロナ対応についての周知を、5月の災害対策支部総点検の際に行ったことに加えて、新たに策定した「新型コロナウイルス等感染症予防に対応した避難所運営マニュアル」にも、災害の発生が事前に想定できる場合には学校体育館等を早い段階から避難所にするこことや、「3密」対策などを盛り込んだ

とし、そのうえで、避難所における感染症蔓延防止対策を今後も進めていく旨の答弁がありました。ただ、市民協働部長からは、現在28ある指定避難所を増やすにはマンパワー上の課題があるとの実情も明かされたことから、宮下はこれに対し、避難所に定員不足が生じた際に予想される車中避難を含む避難所外避難者について、実態の把握や安全確保策などの課題を指摘しました。

また、新型コロナウイルスを含む感染症対策を講じた避難所の設営・運営については、新たなマニュアルに基づいた本年度の訓練メニューに感染症対策を加えたとし、今後とも新たな動きに応じて実施していくとの答弁でした。こうした新たな知見が職員に広く共有されるよう、そのノウハウをぜひとも着実に積み重ねていってほしいと思います。

## 災害時の不安の解消と避難所の安全確保について

感染症への恐怖心によって差別や排除が起こらないようにするための人権啓発や適切な情報発信については、同じ9月定例会で可決された「大府市感染症対策条例」に盛り込まれている「差別的取扱い等」の禁止の条項が答弁の中で触れられ、今後も

避難所において受入拒否が起こらないよう啓発していくとの考えが示されました。

無症状感染や感染疑いがある市民等に自宅外避難の必要が生じた際の対応を尋ねた質問では、PCR検査待ちや濃厚接触者として自宅待機中の方が避難所に避難してきた場合、「避難所に専用のスペースを設けて対応」する旨の答弁がありましたが、これについては、避難所におけるゾーニングの用途が想定されている救護用エアータントの購入予算が、後の12月定例会で可決された一般会計補正予算(12号)に盛り込まれています。



補正予算で購入が決まった救護用エアータント ※ 画像はメーカーウェブサイトより引用

### お知らせ

令和2年12月定例会の議案と一般質問については次号でご報告いたします